

茨城県陶芸美術館 企画展

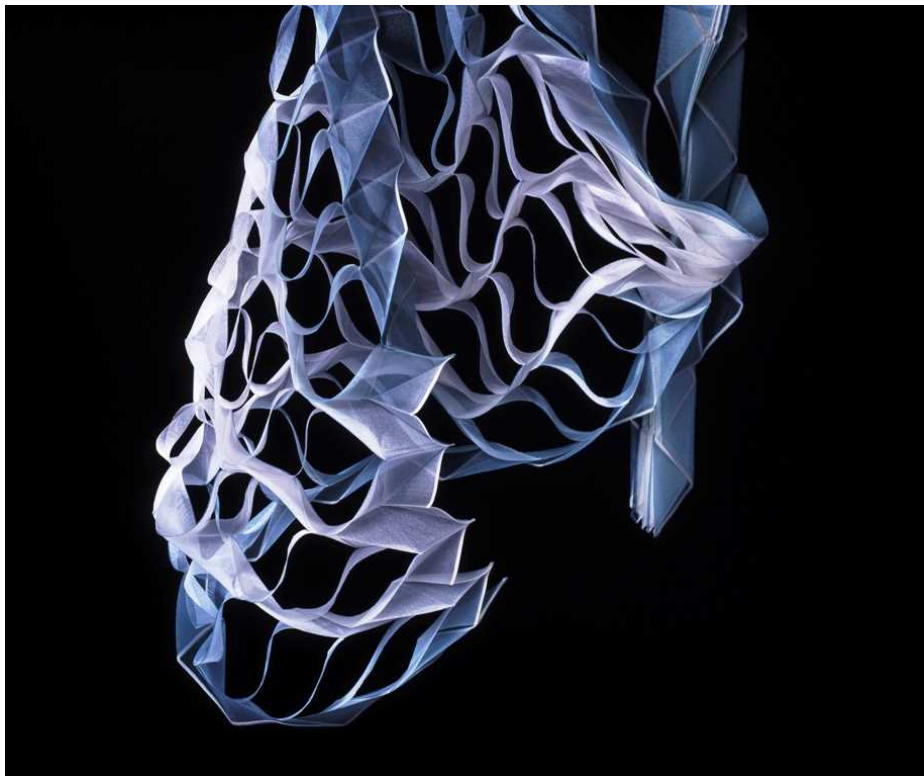
いばらき工芸大全Ⅲ 染織の巻

プレス・リリース

2018年1月2日(火)～3月11日(日)

前期: 1月2日(火)～2月4日(日)

後期: 2月6日(火)～3月11日(日)



①須藤玲子「たなばた」平成17年(2005)

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名 いばらき工芸大全Ⅲ 染織の巻

2 開催趣旨

A：一言でいうと（117文字）

7世紀頃の古墳から出土した繊維にはじまり、平成22年(2010)にユネスコの世界無形文化遺産に登録された結城紬、そして作家として創作活動を行う近現代の染織家の作品まで約80件の資料と作品により時代をこえて受け継がれる技と作品との魅力をご紹介します。

B：もう少しでいねいにいうと（161文字）

いばらきと染織の関わりは古く、県内の3神社には養蚕起源の伝説が伝わっています。本展では、7世紀頃の古墳から出土した繊維から、平成22年(2010)にユネスコの世界無形文化遺産に登録された結城紬、そして近代以降個人作家として創作活動を行う染織家の作品まで約80件の資料と作品により、時代をこえて受け継がれる技と作品との魅力をご紹介します。

C：詳細にいうと（635文字）

本展は当館が陶芸にとどまらず、いばらきゆかりの工芸品の魅力を紹介するシリーズの第3弾です。

いばらきと染織の関わりは古く、日立市の蚕養（こかい）神社、神栖市の蚕霊（さんれい）神社、つくば市の蚕影（こかげ）神社には養蚕の始まりとされる金色姫（こんじきひめ）の伝説が伝わっています。染織品は脆弱なため出土品が非常に少ないのですが、古いものでは7世紀頃の古墳の副葬品に付着していた貴重な経錦（たてにしき）や麻などが出土しています。他にも遺跡から出土する糸巻きや『常陸国風土記』などの文献資料からは、古代のいばらきが染織品生産の産業の盛んな地であったことがわかります。奈良時代の「あしぎぬ」が起源とされる結城紬は、昭和31年(1956)に国の重要無形文化財に、平成22年(2010)にはユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。

近代に入ると作家として創作活動を行う染織家も登場し、文展・帝展・日展と長く活躍した桜井霞洞（かどう）や、水戸藩士の家系を継ぎ重要無形文化財「友禅」保持者（人間国宝）に認定された中村勝馬から現在活躍中の作家まで、染織の可能性を追求し、独自の表現を発表する作家を多く輩出してきました。さらに明治に入って生産が途絶えた宮城県白石（しろいし）の紙布（しふ）を、常陸大宮市の西ノ内和紙の職人と協力を得て蘇らせ、自らの表現に結びつける紙布作家など、いばらきに関わる染織の世界は、とても豊かです。

本展では、約80件の資料と作品により、時代をこえて受け継がれる技と作品との魅力をご紹介します。

3 展示構成

出品総数 約80件

第Ⅰ章 遺跡・古墳からの出土品

第Ⅱ章 マイワイ・水戸染・結城紬

コラム 家事としての染織 裁縫雛形・帯

第Ⅲ章 近代から現代の染織 織・刺繍・染

第Ⅳ章 紙布

第Ⅴ章 テキスタイル

4 主な作品（別添作品写真キャプション）

①須藤玲子「たなばた」平成17年(2005)

②鉄地金銅張半球形八脚雲珠（風返稲荷山古墳 くびれ部箱形石棺外出土馬具のうち）古墳時代（7世紀頃）茨城県指定文化財 かすみがうら市歴史博物館

③桜井霞洞「漁労之図」昭和3年頃(c.1928)

④浅野榮一「唐棧縞」平成27年(2015)

⑤本場結城紬技術保持会「平結城亀甲緋着尺 160通し」昭和30年(1955)東京国立近代美術館

- ⑥土手千鶴子「水草 木綿地タピストリー」平成 15 年(2003)
- ⑦中村光哉「遊園地」昭和 41 年(1966) 水戸市立博物館
- ⑧桜井貞子「絹紙布風通緋紅梅織着物『満ちる春』」平成 5 年(1993)

5 会期・会場等

会期:1 月 2 日(火)～3 月 11 日(日)

前期:1 月 2 日(火)～2 月 4 日(日)

後期:2 月 6 日(火)～3 月 11 日(日)

開館時間:午前 9 時 30 分から午後 5 時まで(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日:月曜日

※ただし 1 月 8 日(月・祝)、2 月 12 日(月・振替休日)は開館、
翌 1 月 9 日(火)、2 月 13 日(火)休館。

会場:茨城県陶芸美術館 地階企画展示室

6 主催:茨城県陶芸美術館

特別協力:茨城県工業技術センター繊維工業指導所

助成:芸術文化振興基金

7 観覧料

一般 720(570)円/高大生 510(410)円/小中生 260(210)円

* () 内は 20 名以上の団体料金。満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方(ただし 1 人につき 1 人まで)は無料。土曜日は高校生以下無料。

8 関連行事

*詳細はイベントチラシ、ホームページ等でご確認下さい

○講演会「未知なる世界を目指して」

世界的に活躍する、茨城県生まれのテキスタイルデザイナー須藤玲子氏にこれまでのテキスタイルデザイン、これからのテキスタイルデザインについて伺います。

日時:3 月 10 日(土) 13:30～15:00

会場:当館 1 階多目的ホール(聴講無料)

講師:須藤玲子氏(株式会社 布 テキスタイルデザイナー・東京造形大学教授・
本展出品作家)

定員:120 名(先着順)

○ワークショップ「織り機を作り、布を織る」※企画展チケットが必要です。

段ボールなどで織り機を手作りし、その織り機で布を織ります。織り機と布は、お持ち帰りいただけます。

日時:2 月 17 日(土) 10:00～15:00

会場:当館地階研修室

講師:茨城県工業技術センター繊維工業指導所職員

定員:30 名(中学生以上対象)

申込方法:電話または FAX にて事前申込(先着順)

○呈茶会「出品作家の作品でしつらえた茶席で一服」

日時:1 月 14 日(日) 10:00～/10:30～/11:00～/

11:30～/13:00～/13:30～/14:00～/

14:30～/15:00～/15:30～

会場:当館地階オープンギャラリー

席主:海老澤宗香氏



参加費：500円

定員：各回とも先着10名（先着順・事前予約可能）

○出品作家による作品説明会 ※企画展チケットが必要です。

江戸小紋の浅野榮一氏、沖縄の紅型に基づく作品を制作する村山佳津典氏、紙布を制作する妹尾直子氏に、それぞれの作品に対する思いと制作方法について、映像を交えながらお話を伺い、その後、それぞれの作品の前で解説をしていただきます。

日時：2月3日（土）13:30～

場所：当館多目的ホール・企画展示室

講師：浅野榮一氏（江戸小紋）、村山佳津典氏（紅型）、妹尾直子氏（紙布）

司会：金子賢治（当館館長）

○ギャラリートーク ※企画展チケットが必要です。

担当学芸員が展覧会をご案内。

日時：1月27日（土）/2月18日（日） いずれも13:30～

9 音声ガイド

会期中は入口にて、県内高校の放送部員がナレーターをつとめる音声ガイドの貸し出しを実施しています。

使用料：無料

協力：高文連放送部 水戸第一高校・水戸第二高校・日立第二高校・並木中等教育学校

10 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間 2345 番地（笠間芸術の森公園内）

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当 学芸課 首席学芸員 今瀬 佐和 imase.sawa@mail.ibk.ed.jp

広報担当 企画管理課 首席学芸主事 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

※プレスリリース用写真データ

広報担当の E-Mail アドレス kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp までご連絡いただければ、すぐにデータをお送りいたします。写真を掲載する際には“4 主な作品”に記載されている、それぞれの作品キャプションを併記してください。



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧